
クラスメートが僕を狙う日。

祥@龍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

クラスメートが僕を狙う日。

【Nコード】

N0174Z

【作者名】

祥@龍

【あらすじ】

僕達の関係は、とある謎のチャットとダンボール箱で狂った。

第一話 チャットにて。

とあるチャットでの出来事。

カズ【…と、きょうはこないちにちでした】

よしん（笑）【俺ら親友なんだし敬語よせwたまには漢字変換しよ
うぜ？】

カズ【ばそこんにはなれてないので】

よしん（笑）【相変わらず読みにくいw】

AYAが入室しました

よしん（笑）【ちわー】

カズ【こんにちは、きのうもいましたよね】

AYA【はい。今日は一つ疑問があつて来ました。】

てらてるが入室しました

この世のトップが入室しました

てらてる【今回も皆様に会えて光栄です。…が、なぜ貴方が私と同
じタイミングで入って来たのですか？】

この世のトップ【お前に関係無いしw】

てらてる【もう勝手にしてください。いきなりですが、私は皆様に
聞きたい事があるので。】

カズ【なに】

よしん（笑）【もしかしてー！？AYAさんと一緒かも
？w】

AYA【てらてるさんも同じですか？】

てらてる【何をです？】

AYA【このチャット…私達含め、特定された7人の人達しかでき

ないみたいなんですよ。管理人さんも不明だし…。」

てらてる【全く貴女と同じです。何故特定された人物しかできないのか。ところで、皆様、このチャットを知ったキツカケは？】

カズ【ともだちにおしえてもらった】

よしん（笑）【えー俺は、調べてたらでてきた（笑）あと俺、カズと友達なんスよー】

AYA【私は、知らないメールアドレスの人からメールが来て…内容が『http://xxxxxxxxxx/xxxxx...の所に行け』でした。】

てらてる【この世のトップさんは？】

この世のトップが退室しました

てらてる【全く、あの人は。AYAさん、そのメールどんな人からでした？】

AYA【変なアドレスでしたので覚えてません…。ですが、最後の一言だけ覚えてます。】

よしん（笑）【何何いい???】

AYA【

<kanrinnin>

】

AYAが退室しました

よしん（笑）【あ、消えた。】

カズ【じぶんもそろそろたいしつします、では】

カズが退室しました

よしん（笑）【んじゃ俺もノシ】

よしん（笑）が退室しました

てらてる【…<kanrinnin>ですか。…もしやこのチャットの管理人？】

てらてるが退室しました

第二話 シンプルに

「何様^{なにさま}のつもり!？」

「浅間^{あさま}のつもり。」

僕はいつだってそう言う。

だってさ、「浅間^{あさま かずひこ}和彦」以外何様でもないもん。

僕の学校生活、プライベートは、いたって普通^{シンプル}だ。

僕だって地味に生きてるワケだし、イジメとかそういうのは全然受けてなかった。

できれば喧嘩^{けんか}沙汰なんて避けたいけど、巻き込まれて、結果はすぐ終わる。

地味に生きて普通^{シンプル}な人生を満喫^{まんきつ}してるのに、周りの捻くれ者^{はは}の人達は僕の進路を普通に阻む。

関係の無いトラブルに巻きこまれたり、同じクラスの女子から「好き」だと告白されたし、無理矢理部活に入らされたり。

でもまあ、まだそれは少し捻くれた人達だ。

マシと言えば、親友か幼なじみぐらい。

もっと捻くれた者は………秘密^{ひみつ}。

今は言えない。これは、ほんの序章^{じょしょう}にしか過ぎないから。

歪んだ物語は歪んだ形となって消えて行く。
それも、誰かの人生を歪ませて。

ある日家の前にダンボール箱が合ったんだ。

第三話 苦勞するヤツ

俺、『このはなよしあき此花良明』はいつでも元氣モリモリ！

別に悩みなんて無^ねえし、友との友情は深まるばかり！
おまけに、先週、クラスのやつに告白されたんだぜ！

俺ってホントにラッキーだ！！

この世に生まれて来て良かったああ！！！！！！
お父さんお母さんありがとおおお！！！！！！

え？俺の事ウザいって？

んなこと言つなよなー。

俺だつてさ、自分で『幸せ』って言ってるけど、本当は苦勞してるんだぜ。

さっき言つたように、悩みなんて無いっていうのは、悩みを作らないように努力してるんだ。

友情は深まったのは…たぶん俺がいつも以上に遊びに誘ったせいかな。

えーっと、クラスのヤツに告白されたのはな、俺がその子にずっと話しかけてたからだ。うん。

白鳥ってよ、綺麗に泳いでるみてえだけど、水面下では必死にバタ

足してんだぜ？

あ、そだ。

話変わるけど、俺の親友がよーパソコンの使い方分かんねーみてえんだよー。

ま、親友^{そいつ}以外ならいいけどよ………漢字変換しないんだよっつっ！！
チャットとかでも読みづらいし……親友なのに敬語だし！

でも俺はあえて、あんまり親友^{そいつ}に「漢字変換しろ」とかは言わない。
たまーに言うだけかな。

………（笑）

ああー！俺が言いたいのは、努力するのは難しいってコト！
努力したら報われるらしいけど……努力するにつれて、苦勞も着いて来る。

え？なんでオチャラケな俺が真面目な事言っただって？

それはこの物語を読んだらわかるよ。

ある日、俺は親友を裏切った。

第四話 悪人

ねえ知ってる？この噂。

家の前に、ドクロマークの付いたダンボール箱を置かれた人は中を絶対に見てはいけないんだって。

ってこの前、友達が言ってた。

もし、注文していた品物が入ってるダンボール箱が届いたのはいいんだけど…ドクロマークのダンボール箱？

一体、何が入ってるんだろう？

もしかして財宝！？ステキなドレスかなあ？

浦島太郎みたいに老いばれになっちゃうとか！？

想像する度にワクワクする。

あ、でも…そのダンボール箱を置かれた人は、必ず『悪人』になっちゃうんだって。

どうしてだろう？

もしも、私の友達が置かれたらどうしよう…。

友達が悪人になっちゃうよう…。ふえ〜ん。

もう二度と、周りの人が悪人にならないで欲しいな…。

私はもう…過去を振り返らないって決めたのに…あの頃の記憶が再び脳裏に浮かんだり消えたりする…。

怖いよ。暗い闇の中に独りぼっちになっているかのように怖いよう。

…今日は特別に、貴方だけに私の過去を教えてあげる。

この物語のキーワードになるかもしれないから。あ、なる「かも」だよ！？ならないかもしれないよ！

正直、私は学校ではアイドル的存在だ。

男子には「あーやん？今日も可愛いね〜？」と、毎日言われる。

女子には、「死ね！ブリッ子女！」と、毎日言われる。

男子は「あーやんこと宮原亜矢ファンクラブ！！」っていうのを作っていて、召使いのように、色々と私の手伝いをしてくれるの。

でも、男子が居ない隙に、女子は私をイジめる。

でもまだ平気だ。

ほとんどの女子は私をイジめるけど、一人だけ私を助けてくれた人物が居た。

名前は「空城^{そらしろ}光^{ひかる}」。

ドSで女王様で、気が強い女の子。

「あ？あんた達さあ、私の可愛い下僕に何してんの？」

と言って、助けてくれる。私、下僕じゃ無いんだけどな（笑）
もちろん、その迫力に勝る者は居ない。

その後、イジメはパツタリ終わった。

ある日、私は礼を言いに行こうとその子の所へ行った。

その子はいつも屋上に居るらしい。

アニメや漫画でしか見た事が無い、ドSで女王様キャラの人。
その頃は、胸がドキドキしてたんだ。

「空城さん！」

屋上へ行くと、女子が空城さんを囲んでいたの。

それだけでは無かった。

私は思いがけない光景を見てしまったのだ。

空城光が飛び降りるところを。

さいわ
幸い、死ななかった。

だが、空城さんは約1年の入院生活を送った。

空城さんが入院生活を送っている間、学校中に変な噂が流れた。

『空城光は、家族を殺した。』

と。

空城さんが学校へ戻ったら、噂は影でだけ言われるようになった。表で言ったら、空城さんに何か言われるから、皆怯えてると思う。

-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
-

今はもう噂はパツタリ消えて、空城さんはクラスの中心（女王様）的存在になっている。

私はあの頃の礼も言えないまま、今も空城さんを見ている。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0174z/>

クラスメートが僕を狙う日。

2011年12月3日12時54分発行